

◆実践問題39◆

(処刑を間近に控えた三位の中將は、護送の途中、妻との対面を許された。)

三位の中將、泣く泣くのたまひけるは、「いかに

もして、今一度、御姿を見奉らばやと思ひつるに、

今はつゆばかりも思ひ置くことなし。出家して

形見に髪をも奉らばやと思へども、許されなければ

ば、力及ばず」とて、額の髪を少し引き分けて、口

の及ぶ所を少し嚙み切ッて、「これを形見に御覽ぜ

よ」とて奉り給ふ。北の方は、日頃おぼつかなく思

しけるより、今ひとしほ悲しみの色をぞまし給ふ。

「まことに別れ奉りし後は、越前の三位の上のや

うに、水の底にも沈むべかりしが、まさしうこの

世におはせぬ人とも聞かざりしかば、もし、不思

議にて、変はらぬ姿を見もし見えもやすると思ひ

てこそ、憂きながら今まで長らへてありつるに、

今日を限りにておはせんずらむ悲しさよ。今まで

延びつるは、もしやと思ふ頼みもありつるものを

とて、昔今のことどものたまひかはすにつけても、

ただ尽きせぬものは涙なりけり。北の方、「あまり

に御姿のしをれて候ふに、奉り替へよ」とて、裕の

小袖に浄衣を出だされたりけり。

1回目

2回目

3回目

4回目

5回目